

ハイウォールと既存物との取合い

ハイウォール(緑化擁壁)工では、基本的に土工事です。規定どおりの転圧を行っても、圧密沈下を完全には防止できません。特に、降雨後に圧密沈下が進む場合がある。

{圧密沈下によって構造体は安定します}

構造形態が異なる既存物との取合い部では、圧密沈下量に差ができます。堅固な既存物(軟岩以上の地山や構造物等)との取合い部では、沈下量差が数cmと大きくなり、ハイウォールが損傷を受ける恐れがあるので、このような場合は、縁切りを行います。

土のう法

* 内部法

既存物が地山等で、形状が複雑な場合は、緩衝部として“土のう”を使用する。ハイウォール端部の出入り凸凹部の凹部に土のうを入れればより安定する。表面の直背面セルのみで充分です。



* 外部法

